

(様式1)

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を職員間で勉強会を開き、事業所に合った理念を作り上げている。状況や変化に合わせ、見直しを考えている。	○	温泉をメインに、独自の理念を作り上げたいと考えている。
2 ○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日、朝礼で理念の唱和を行い、職員全体で共有を図り、理念についての勉強会を行っている。		
3 ○ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	訪問者が目に触れやすいように玄関に提示している。	○	地域の人々の目に触れるように、理念や活動報告を隣接の湯治場にコーナーを作り、広報活動を広めたい。
2. 地域との支えあい			
4 ○ 隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	民家より離れているため、中々近所つきあいができないが、隣接の湯治場があるため、馴染みの人が面会に寄り、共に時間をすごせるようにしている。湯治場で管理者が健康セミナーを開催している。	○	キャラバンメイトの養成研修を終了しており、今後地域の認知症普及活動へ貢献したいと考えている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5 ○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員と共に話し合い、自己評価をしており、サービスの振返る機会となっている。		
6 ○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進メンバーと協議し合い、議題やサービスの向上に向けて意見や助言を参考にし、会議を持っている。	○	運営推進会議での内容を、家族に報告したいと考えている。
7 ○ 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	職員が地域の婦人消防団員であり、地域の活動に積極的に参加している。		
8 ○ 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、報告会も行っているが、全職員が理解するには、乏しい状況である。	○	定期的に学習会を開きたいと思っている。
9 ○ 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、報告会も行っているが、全職員が理解するには、乏しい状況である。	○	定期的に学習会を開きたいと思っている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居時に説明を行い、理解を得ている。	
11	○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々、利用者が意見を言いやすい雰囲気作りに心がけている。	
12	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の体調が悪化したときなどは、速やかに家族に、連絡している。預かり金については、請求書と共に報告書を送っている。持参時は、確認にサインをもらっている。	
13	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に苦情申し立ての窓口を紹介している。	
14	○ 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	おおむね、2ヶ月に1回全体会議やリーダー会議を行い、意見を反映させている。	
15	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	他のユニットの職員が、応援できる体制を作り(兼務の職員)利用者の体調不良や生活状況の変化に対応できるように努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	合同の行事を行い、各ユニット職員と顔なじみになるよう配慮している。職員の異動は、最小限度にしている。		
5. 人材の育成と支援				
17	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会への参加や報告会を開き、勉強する機会を行っている。		
18	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他市町村に同系のグループホームがあり、行事・研修会の参加することで、情報交換を行っている。認知症介護実践者研修の実習先として、実習生を受け入れている。		
19	○ 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	隣接の湯治場にて、業務終了後入浴したり、カラオケをしたり職員の親睦を図っている。管理者が悩み・相談を行っている。		
20	○ 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修会を設けている。実践できる体制をつくれるよう業務の配慮を行っている。(資格習得)		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
21	○ 初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用中や退居になる場合でも、安心して生活ができるように、相談する機会を設けている。		
22	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用に対しては介護支援専門員と職員とで事前面談し、対応している。		
23	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の自宅への帰宅や家族の面会時の送迎を行うことで家族との話し合いをする機会を増やしている。家族と相談しその人らしい生活が過ごせるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
24	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で、共に食事をし、共に入浴したりすることで、家族と共に生活しているような雰囲気の中、喜びや悲しみを共にしている。郷土料理などを教わっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と会話を持つように努め、日々の様子を伝え、疾病の悪化、心身状態の低下なども速やかに相談しながら本人の暮らしを共に支えていくという協力関係を築いている。		
26	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	認知症により家族関係が難しくなり、中々接点が無くなっているため、行事等に参加を呼びかけ、思い出作りができるよう支援している。		
27	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	敬老会は利用者の住所地に行けるよう支援している。馴染みの商店街に買物し、催し物に参加している。		
28	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	居室でひとりきりにならないように訪問し、寄り添う時間を作っている。	○	認知症の研修を行い、利用者の対応できるようになりたいと考えている。
29	○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後も、家族の方が遊びに来られ、相談や近況報告を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
１．一人ひとりの把握			
30	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表情や会話から、本人の思いを汲み取り、「どこが本人に困難なこと」が見極め、笑顔でいる時間を少しでも、長くいられるように、職員間で検討している。	
31	○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、介護支援専門員、サービス事業所、知人や友人などから情報を得るようにし、本人の生活に活かせるようにしている。	
32	○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日一日の生活の変化を見逃さず、本人の出来ることの支援を多くできるように、記録し、職員間で情報を共有し、統一したケアできるよう対応している。	
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員会議、ケアカンファレンスを毎月行い、職員間で情報を出し合い、家族や本人の意向を取り入れ介護計画に反映させている。	
34	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	おおむね、3ヶ月から6ヶ月で見直しを行っているが、見直し時期以前に、状態に変化が生じた場合は、家族に連絡するとともに職員間で検討し作成し直すことにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の「気づき」として介護日誌に記入された内容を基に、カンファレンスを行い、介護計画の見直しに活かしている。ケア記録に、個別のチェック表をつけ、日常生活の中で本人の出来る支援をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	温泉を利用し、認知症や身体障害のある方に入浴の開放を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	中学生のボランティアと一緒に餅つきをしたり、利用者の家族の紹介により、唄と踊りを一緒に行っている。民生委員・警察・消防は運営推進会議のメンバーでもある。		
38	○ 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	実施していない。		
39	○ 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括センターとの関わりは必要とする事例はないが、運営推進会議には毎回参加していただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望を聞いたうえで、協力医療機関等での受診を支援している。受診結果は家族にその都度報告し、共有している。		
41	○ 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医に受診している利用者もあり、かかりつけ医と連携を取り、治療している。		
42	○ 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	専任の看護職員が在住し、いつでも相談・支援が可能である。		
43	○ 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先と随時情報交換し、状態の把握をし、受け入れ準備を行っている。		
44	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のケアには家族や医療機関と相談しおこなっている。	○	ターミナルケアの同意書作成し、個々のケースに対応したいと考えている。
45	○ 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	対応できるかどうかを職員会議で検討し、かかりつけ医のバックアップができ、家族の意向に沿えるように、同意を得ている。	○	近くの病院が診療所が変わるので、家族と相談し、安心できる医療を体系できるようにしたいと、考える。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○ 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	自宅や病院での情報交換を行うようにし、言語や場所を理解することにより、リロケーションダメージの軽減を図る。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
47	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録には、他利用者の名前は記入しないようにしている。排泄時など、目隠しカーテンを使用するように心がけている。個人情報事務室の鍵がかかる場所に保管している。		
48	○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己決定する機会を支援している。自分の思いを伝えきれない方には、職員が汲み取り、出来る限り自分本位の生活が出来るように支援している。		
49	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムを尊重し、自由に過ごしてもらいたいために、職員は急がせないように、待つよう心がけている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	2ヶ月に1回、理容ボランティアが来所し、本人の希望により、パーマやカラーリングを行っている。ネイルケアに行くこともある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	慣れ親しんだ郷土料理を共に、調理し(きりたんぼ)作 る楽しさや、食べる楽しさを味わってもらえるように支 援している。食事形態が多様化し、おいしく、自力でた べらるるように、工夫したいと考える。	○	運営推進会議で、ソフト食の試食会など行い、多くの 意見を活かした、食事提供を考えている。
52	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、 好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常 的に楽しめるよう支援している	嗜好調査を行い、飲酒等の希望を行っている。おやつ 等は一緒に買物に出かけ、選んでもらっている。		
53	○ 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひ とりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気 持ちよく排泄できるよう支援している	24時間排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握 し、誘導・声掛けを行っている。		
54	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわず に、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、 入浴を楽しめるように支援している	温泉なので、毎日入浴していただいている。一日何回 も入浴する方の多いです。なかなか入浴しない方は、 職員も一緒に入浴するとこもある。		
55	○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応 じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう 支援している	個々にあわせて入床できるように、支援している。眠 れないときなど、ホットミルク提供や付き添い安心で きるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽し みごと、気晴らしの支援をしている	個々に合わせて、手芸や塗り絵の支援をしている。 カーテンを引く係りや、食事の支度・後片付けを行うと とで、必要とされている役割をできるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方には、金銭を所持させている。買物時には、お財布を渡し、自らお金を使用できる支援を行っている。		
58	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個別にて外出できるように機会を、おおむね2ヶ月に1回は持つようにしている。		
59	○ 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者から行きたいところのアンケートをとり、行事として日帰り旅行を行っている。行事には家族も参加している。		
60	○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置している。利用者に頼まれたら、電話のかける支援もおこなっている。手紙は郵便局が随時、ファイルいれておく投函できるようになっている。		
61	○ 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会者に対し、笑顔での挨拶を心がけ、椅子や飲み物を提供し、ゆっくりと過ごしていただけるようにしている。家族だけの時間を持てるように、隣接の湯治場を活用し、宿泊や食事が出来るようになっている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
62	○ 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々身体拘束をしないように、業務にあたり、勉強会を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の出入り口にベルをつけ、施錠しなくても良いように環境を整えている。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーを配慮しながら(のれん等)、見守りしている。さりげなく入室し、状態を確認している。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	自己管理できる方には、はさみ等を持たせている。管理できない方は、使用時職員が、付き添い使用している。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットを活用し、事故を未然に防ぐように話し合いを行っている。利用者の行動を把握し、見守りや声掛け、環境整備に努めている。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命・ADEの講習を行っている。		
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	避難訓練を定期的に行っている。地域の自衛消防団に月2回施設前までパトロールしていただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	面会時、今後起こりえるリスク等を説明し、理解してもらっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタル測定を行っている。変化が見やすいようにグラフにし、記載している。看護師に毎日、状況報告をしている。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳の管理とおくすりの情報はファイルしている。ケースにも服薬情報は提示され、職員が確実に目を通せるようにしている。飲み忘れがないように、確実に口の中に投薬をしている。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	24時間排泄チェック表を活用し、排便のチェックを行っている。牛乳やリンゴ等を毎日摂取するように努めている。適度な運動をするために、日課に体操を組み入れている。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食前・後に口腔内ケアを行い、肺炎予防をしている。年に1回は歯科受診をして、義歯の調節を図っている。義歯の洗浄も行っている。(介助)		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスガイドを使用し、栄養のバランスを取るようになっている。連携の病院の栄養・管理指導を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザに関しては、利用者・職員全員予防接種を受けている。外出時のマスク着用や手洗いうがいを徹底して行っている。ノロウイルスの研修会を行い、清掃時便座や手すりのハイター消毒している。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾や調理器具をまめに消毒している。刃物は滅菌庫に消毒している。冷蔵庫清掃チェック表に記入し、確実にしている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに植木やプランターを置き、家庭的な印象になるよう工夫している。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しはカーテンにて調節している。照明も明るさを調節している。季節の飾り物を飾っている。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファスペースがあり、共にテレビ鑑賞したり、体操したりしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	化粧台、テレビ、筆筒など馴染みのものを持ち込みを支援している。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室には換気扇を設置し、随時稼働している。本人から承諾を得て、窓からの換気を行っている。温度調節するため(床暖房)チェック表を作成し、調節している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールやトイレ、浴室に手すりを設置している。玄関には靴の着脱しやすいようにベンチを設置している。利用者の身体機能に合わせて、介護ベットやセミダブルのベット、布団などを整備している。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自分の居室がわかるように目印を、本人にわかりやすいものにしている。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	テラスを活用し、食事や行事を行い、楽しんでいる。天気の良い日は、隣接の足湯まで散歩を行い、日光浴をしている。ほぼ真ん中に、キッチンがあり見守りながら、仕事ができる。ホール内で視角が少ない。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 大いに増えている ○ 少しずつ増えている ○ あまり増えていない ○ 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ほぼ全ての職員が ○ 職員の2/3くらいが ○ 職員の1/3くらいが ○ ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ほぼ全ての利用者が ○ 利用者の2/3くらいが ○ 利用者の1/3くらいが ○ ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ほぼ全ての家族等が ○ 家族等の2/3くらいが ○ 家族等の1/3くらいが ○ ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホームの場所が、青森県の県境に位置し、自然の豊かな温泉地にあります。そのためか、利用されている方は、大館市と平川市と言葉や風習、生活習慣の違いがあり、両方の要望に応える体制を作っている。開設当初からの利用者が重度化してきているが、なれ親しんだグループホームで、生活できるように、支援できる体制を作っている。特に、毎日の温泉入浴、浴槽でのリハビリや入浴後マッサージを行っている。胃瘻を利用者の嚥げい訓練をお行い、随時代替え食を準備し、楽しく食事できるように支援している。